

学年	教科等	単元名	児童	場所	指導者
1年	国語科	「くらべて よもう」	1年2組18名 さくら学級1名	1年2組 教室	小林 博子 (古賀 千尋)

**育てたい資質・能力**

◎国語科において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通して、心を豊かにしようとする態度  
(学びに向かう力・人間性等)

〈本時にかかわる主な資質・能力〉

自動車クイズ大会を開くことを楽しみに感じ、そのために「しごと」と「つくり」を調べて書いた「じどう車ずかん」を作るという見通しをもつ態度

**1 単元について**

(1)単元の目標と評価規準

【単元の目標】

知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる。

本単元は、学習指導要領「1学年」の内容

- ◎【C読むこと(1)イ】  
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- 【C読むこと(1)カ】  
楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。
- 【B書くこと(1)イ】  
自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

を受けて設定したものである。

教材文「じどう車くらべ」は、自動車についての問いに始まり、二つの問いがあり、それに対する説明が具体例に沿って書かれている。それぞれの自動車の「しごと」によって「つくり」が異なり、二つの観点の因果関係が感じられるような説明の仕方になっている。

本単元では、教材文を読み取り、そこで学んだことを生かして、絵本や図鑑から自分で自動車を選び、「じどう車ずかん」として書き表す学習構成を展開する。自分の選ぶ自動車の説明を「しごと」と「つくり」という観点に沿ってまとめる力を育みたい。また、学習の最後に「じどう車ずかん」を基にクイズ大会を開くことで、学習の成果を交流して実感させたい。

【評価規準】

【国語への 関心・意欲・態度】	【読む能力】	【書く能力】	【言語についての 知識・理解・技能】
・知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、説明した本や文章を読もうとしている。	・事柄の順序や文章構成の順序に気を付けながら、文章を読んでいる。	・事柄の順序に沿って構成を考えながら書いている。	・長音・拗音・促音などの表記や、句読点を正しく使って書いている。

(2)児童の実態

児童はこれまで二つの教材文で説明文における「問い」と「答え」を学習している。教材文「くちばし」では、挿絵を基に「問い」と「答え」を確かめながら、鳥のくちばしと餌の関係について読み取る学習をした。挿絵には関心をもつが、「答え」を見付けるのに苦勞する児童もいた。教材文「うみのかくれんぼ」では、「問い—答え—答え—答え」で構成されている文章を読み、海の

生き物の身体の特徴と隠れ方について結び付けながら読むことができた。繰り返して構成された文章は児童にとって捉えやすく、学習が進むにつれて定着しやすい。しかし、答えの文章の内容によって分類することは苦手な児童も多く、本単元でも「しごと」と「つくり」を分けて捉えさせるために、色分けや書き抜きなどの手立てにより活動を通して認識させたい。

また、何をどのように学習するのか分かるまで時間が掛かる児童も多く、単元の学習に慣れるまで意欲が高まりにくい児童もいる。そのため、単元の導入で「じどう車ずかん」のイメージをもたせ、分かりやすいとはどういうことか実感させることが必要であると考えた。また、クイズやなぞなぞが好きな児童が多いので、クイズ大会を開く計画を立てることで、出題者や回答者になることを楽しみに感じ、「じどう車ずかん」を作りたいという学習への意欲が高まることを意図して設定した。

### (3) 指導の手立て

自動車の「しごと」と「つくり」について説明している文を色分けして視覚的に捉えさせる。その作業を通して、それぞれの段落の文章が「しごと」と「つくり」の二つのまとまりで構成されていることを押さえさせる。そして、「そのために」という言葉が二つのまとまりをつなぎ、「しごと」と「つくり」は関連していることに気付かせることで、事柄の順序を意識した読み取りをさせる。また、自動車に関連した絵本や図鑑を休み時間に読めるコーナーを教室前の広場に設置し、自動車への関心を高めやすい環境をつくる。図書室で本を借りなくても、好きな自動車について絵や文で情報を得たり、学習したことを別の自動車で確認したりできるようにする。個別の指導が必要な児童には、ペア学習や個別のワークシートを活用することで「自分でできそうだな」という思いをもたせ、見通しをもって意欲的に学習することができると考えた。

本時では、自動車クイズを体験することで、「じどう車ずかん」作りへの意欲を高めさせ、「じどう車ずかん」作りの見通しをもたせることができると考えた。実物投影機やイラストを活用し、視覚的に捉えさせることで、自分の経験や知識と結びつけやすくなり、意欲的に学習できると考えた。

## 2 単元の指導計画 【12時間扱い 本時1/12時間】

次	時	○学習活動	教師の評価規準（評価方法） ◇到達が不十分な児童への指導の手立て
一 次	① 本時	○自動車にはさまざまな種類があることに気付く。 ○「じどう車ずかん」を作って、自動車クイズ大会をすることへの意欲と見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「じどう車ずかん」を作って、じどう車クイズたいかいをひらこう。</div>	㊦自動車について知っていることや経験したことを話し合い、今後の学習に意欲と見通しをもっている。（観察、発言） ◇板書やイラストを基に、自動車クイズ大会をするために「じどう車ずかん」を作ることを確認する。
	② ③	○全文を読み、だいたいの内容をつかむ。 ○教材文の読み聞かせを聞き、「問い」の文を理解する。 ○単元の学習計画を立てる。 ○新出漢字や初めて知った言葉を学習する。	㊦興味をもって全文を読み、意欲的に学習に取り組もうとしている。（発言、ノート） ㊧新出漢字を正しく読んで、書いている。（音読、ドリル） ◇個別のワークシートを活用する。
	④	○バスや乗用車の「しごと」と「つくり」をとらえ、「そのために」という言葉の役割を理解する。	㊦文型や文末表現に着目し、「しごと」と「つくり」を読み取っている。（発言、ノート） ◇文末表現に着目させ、何について書かれているか、観点ごとに教師と一緒に確認する。
	⑤	○トラックについて、「しごと」と「つくり」を確かめながら読み取る。 ○バスや乗用車と比較し、考えたことを交流する。	㊦文型や文末表現に着目し、「しごと」と「つくり」を読み取っている。（発言、ノート） ◇文末表現に着目させ、何について書かれているか、観点ごとに教師と一緒に確認する。

	⑥	○クレーン車について、「しごと」と「つくり」を確かめながら読み取る。 ○バスや乗用車，トラックと比較し，考えたことを交流する。	㊦ 文型や文末表現に着目し，「しごと」と「つくり」を読み取っている。(発言，ノート) ◇文末表現に着目させ，何について書かれているか，観点ごとに教師と一緒に確認する。
	⑦ ⑧	○挿絵や自分の知識を基に，はしご車の「しごと」と「つくり」をとらえる。	㊦ 挿絵や経験を基に，「しごと」と「つくり」を考え，文型に気を付けてまとめている。(発言，ノート) ◇挿絵や板書を基に，観点ごとに教師と一緒に考える。
二次	⑨ ⑩	○自動車の図鑑や本から，「じどう車ずかん」に書きたい自動車を選んで読む。 ○「しごと」と「つくり」を調べて，ワークシートに書き抜く。	㊦ 進んで絵本や図鑑を見付けて読み，好きな自動車を選んで「しごと」と「つくり」を書き抜いている。(観察，ワークシート) ㊦ 選んだ自動車の「しごと」と「つくり」について，書き抜いている。(観察，ワークシート) ◇教師が用意した文例や友達の記事を参考にさせ，教師や友達と一緒に書かせる。
	⑪	○ワークシートを基に，好きな自動車の「しごと」と「つくり」を書き，イラストを描いて「じどう車ずかん」を完成させる。 ○自分で書いた「じどう車ずかん」を読んで，自動車クイズ大会の練習をする。	㊦ 選んだ自動車の「しごと」と「つくり」について，文型や順序，構成に気を付けて書いている。(観察，ワークシート) ㊦ 新出漢字を正しく書き，長音・拗音・促音を正しく使って書いている。 ◇ワークシートに線を引き，「じどう車ずかん」に書き抜く部分を明確にする。
	⑫	○「じどう車ずかん」を見ながら自動車クイズ大会行い，感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	㊦ 「しごと」と「つくり」に注目して自動車クイズ大会に参加し，友達のよいところを見付けたり，感想をもったりしている。(発言，ノート) ◇感想の文例を提示する。

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

自動車クイズ大会でクイズを出したり答えたりしたいという意欲をもち，そのために自分の「じどう車ずかん」を作ることが分かり，「じどう車ずかん」に書く内容の見通しをもつ。

#### (2) 本時の展開【12時間扱い 1/12時間目】\*一単位時間レベルB-①【課題意識重視】

	子どもの活動	思考	□教師の働きかけ ◆評価(評価方法)
導入 25分	1 自動車について知っていることを思い出し，話し合う。 「家にも自動車があるよ。」 「幼稚園バスに乗ったことがあるよ。」	全体	□経験を基に，自由に語らせる。
	2 挿絵を見て，どんな自動車が走っているか見付け，大まかな働きを発表する。	個 ↓	□教科書の挿絵を提示し，知識や経験から自動車の名前と大まかな働き

	<p>「タクシー」→「お客さんを乗せる」  「パトカー」→「悪い人を追いかける」  「ダンプカー」→「土を運ぶ」  「郵便車」→「手紙を運ぶ」</p> <p>3 教師が作った「じどう車ずかん①」を基に、自動車クイズ①に答える。  「火を消すから、消防車だ！」  「ぼくはホースのところで分かった。」  「自動車クイズに答えるのは楽しいな。」</p> <p>4 教師が作った「じどう車ずかん②」を基に、自動車クイズ②に答える。  「これはなんだろう。」  「何の自動車か分からないな。」  「絵を見たら、消防車だって分かった。」  「さっきのクイズとどこが違うのかな。」</p>	<p>全体</p> <p>個 ↓ 全体</p> <p>個 ↓ 全体</p>	<p>を引き出す。  <input type="checkbox"/> 自動車には様々な種類があることをとらえさせる。</p> <p><input type="checkbox"/> 消防車について「しごと」と「つくり」のはっきりとした文章を読み、回答場面でイラストを見せる。</p> <p><b>* 「しごと」と「つくり」がはっきり分かるクイズ①に実際に答えさせることで、自動車クイズの仕組みを理解し、クイズ大会の意欲を高めさせる。</b></p> <p><input type="checkbox"/> 消防車について、「しごと」と「つくり」の観点を示していない文章を読む。</p> <p><b>* 観点が曖昧なクイズ②に取り組みせ、答えにくいことを実感させることで、どうしてかという疑問を抱かせる。</b></p>
<p>展開</p> <p>1 5 分</p>	<p>5 自動車クイズ②が分かりにくかった理由を考えて、発表する。  「②は、消防車の仕事を詳しく書いていないから何か分からない。」  →「①は、消防車の仕事を詳しく書いているから分かりやすい。」  「②は、タイヤがあるのは当たり前だから、当たり前のことを書いてもダメ。」  →「①は、消防車だけのつくりを書いているから分かりやすい。」  「分かりにくいじどう車ずかんからクイズを出したら、クイズ大会があまり楽しくない。」  →「分かりやすいじどう車ずかんを作って、楽しいクイズ大会にしたい。」</p> <p>6 みんなに分かりやすい「じどう車ずかん」を作るために、必要なことを確認する。  「どんな仕事をするか書いているといい。」  「どんな作りになっているか書いているといい。」  「どっちかがなかったら、分かりやすくないから両方必要。」</p>	<p>個 ↓ 全体</p>	<p><b>改善のポイント①</b>～提示内容の精選  ～児童の意識を「しごと」と「つくり」に向けさせるため、児童にとって身近で分かりやすい自動車を題材に選ぶ。</p> <p><input type="checkbox"/> 自動車クイズは「じどう車ずかん」を基にしていたことを知らせ、二つの「じどう車ずかん」の違いを比べさせる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「しごと」と「つくり」という言葉を教える。</p> <p><input type="checkbox"/> 「しごと」と「つくり」を書くと分かりやすい「じどう車ずかん」になり、分かりやすい「じどう車ずかん」を基にクイズを出すと、クイズ大会も楽しくなることを関連付けて捉えさせる。</p> <p><b>改善のポイント②</b>～視覚的に情報を整理  ～同じところと違うところを教師が整理し、色やマーク等で視覚的に捉えさせることで、児童の思考を整理する。</p> <p><input type="checkbox"/> 「しごと」と「つくり」を関連付けて両方書くことで分かりやすい「じどう車ずかん」になることを確認する。</p>

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>「しごと」と「つくり」をかいた「じどう車ずかん」をつくって、 じどう車クイズたいかいをしよう！</p> </div>			
終末 5分	<p>7 今日の学習で分かったことや、これからの学習でやりたいことを発表する。 「早く図鑑を作りたいな。」 「私はショベルカーが書きたいな。」 「自動車クイズ大会が楽しみだな。」</p> <p>8 次時の見通しをもつ。 「教科書の自動車のお話を読んでみたいな。」</p>	<p>個</p> <p>個</p>	<p>□本時の学習を振り返らせる。 ・分かったこと ・図鑑に書きたいこと</p> <p>◆自動車クイズ大会を開くことに関心を持ち、「じどう車ずかん」作りに意欲と見通しをもっている。 (観察, 発言)</p>

### (3) 本時の評価

<p>◇評価規準の具体 (評価方法～観察, 発言)</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】</p> <p><b>十分に満足できる (A) :</b> 自動車クイズ大会に関心を持ち、そのために「しごと」と「つくり」のはっきり分かる「じどう車ずかん」を作るという見通しと作りたいという意欲をもっている。</p> <p><b>おおむね満足できる (B) :</b> 自動車クイズ大会に関心を持ち、そのために「じどう車ずかん」作るという見通しと作りたいという意欲をもっている。</p> <p><b>努力を要する児童への指導 :</b> 自動車クイズ大会をするためには「じどう車ずかん」を作ることをとらえさせ、学習への意欲をもたせる。</p>
--

## 4 取り入れたアクティブ・ラーニングの視点と授業改善のポイント

### (1) 授業のねらい

#### 【アクティブ化シートB-①（課題意識重視）】

～自動車クイズ大会を経験することで答えやすさ答えにくさを実感させ、学習したい観点到気付けさせる～

単元のゴールに開催する自動車クイズ大会を単元の導入で一度経験させ、自動車クイズ大会のイメージをつかませる。そして、自動車クイズ大会を開くためには、自分がクイズにしたい自動車の「しごと」と「つくり」を書いた「じどう車ずかん」を作るということが必要であることを関連付けて捉えさせたい。「しごと」と「つくり」が必要であると意識付けるために、教師の出すクイズは2種類用意し、観点がはっきりしないと答えづらいことを実感させる。

自動車クイズ大会の楽しさを味わわせることで、クイズに必要な「じどう車ずかん」作りに意欲をもたせ、分かりやすいクイズと分かりにくいクイズを実感させる。そうすることで、「じどう車ずかん」には「しごと」と「つくり」を書くという見通しをもつことができると考える。

### (2) 成果

- 自動車図鑑作りと自動車クイズ大会を関連付けたことで、自動車図鑑作りへの関心や意欲が高まった。1年生は、図鑑作りが初めてであり見通しをもたせづらい。しかし、クイズを出したり、答えたりした経験は全員があり、「クイズ大会＝楽しい」と感覚的に捉えている。そのことを利用し、単元のゴールに児童の楽しみなことを設定したことは、1年生にとっては効果的だった。
- 単元の導入で良い例と悪い例の2種類の自動車図鑑を提示し、違いを検討させたことで、「しごと」と「つくり」に着目して学習するという見通しをもたせることができた。
- 自分の意見を発表する前にペアで話し合う場面を設定したことで、感覚的なものを言語化できる児童が増え、全体での意見交流が活発になった。

### (3) 改善

#### 改善のポイント①～提示内容の精選～

本時では、「ポンプ車」と「救急車」の自動車図鑑をそれぞれ2種類ずつ作り、それを基にクイズを行った。教科書に「はしご車」が掲示されているため上位語の「消防車」という言葉は使わなかったが、「ポンプ車」という言葉は1年生にとってなじみが薄い言葉だった。「消防車」という言葉を使うか、あるいは、別の自動車にした方が、児童にとって分かりやすかったのではないかと考える。

#### 改善のポイント②～視覚的に情報を整理～

本時では、中・低位の児童の中には、図鑑の内容に注目できず、文章の長さや絵にのみ意識が向く児童もいた。教師が注目してほしい部分以外は全て同じにするとよかった。また、同じところと違うところを教師が整理し、色やマーク等で視覚的に捉えさせることで、児童の思考が整理しやすくなったと考える。